

募金の活用について

日本固有の純粋な在来馬種（日本在来馬）は、北海道和種（北海道）、木曾馬（長野県）など、現在8種類が存在します。

その中でも野間馬（愛媛県）、対州馬（長崎県）、宮古馬（沖縄県）については残存頭数が非常に少なく、絶滅の危機に瀕しており、文化的価値の高い日本在来馬の頭数の維持、増加を図ることを目的として皆様からご支援をいただきました募金を活用し、以下の様な取り組みを行います。

超音波画像診断装置（エコー）の導入 【野間馬ハイランド（今治市）】



絶滅の危機に瀕する馬種のうち「野間馬」は、平成18年度に総頭数85頭まで回復しましたが、ここ数年、急激な飼養頭数の減少が見られ、現在、残存数が約50頭となっています。

さらに若い雌馬の頭数が非常に少ない状況であることも絶滅の危機が心配されるところです。

増頭対策の手段の一つとして雌馬を効率よく妊娠させることが必要と考えられるため、公益財団法人馬事文化財団では皆様の募金を公益社団法人日本馬事協会に寄付し超音波画像診断装置（エコー）を導入、「野間馬ハイランド（今治市）」に於いて活用します。

同装置の活用により卵胞の発育状態を確認することで正確な交配適期の判定や妊娠鑑定が可能となり、仔馬の生産に効果が期待されるものです。

今後も、皆様からの募金・寄付金を活用して、在来馬の保護活動に努めてまいりますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

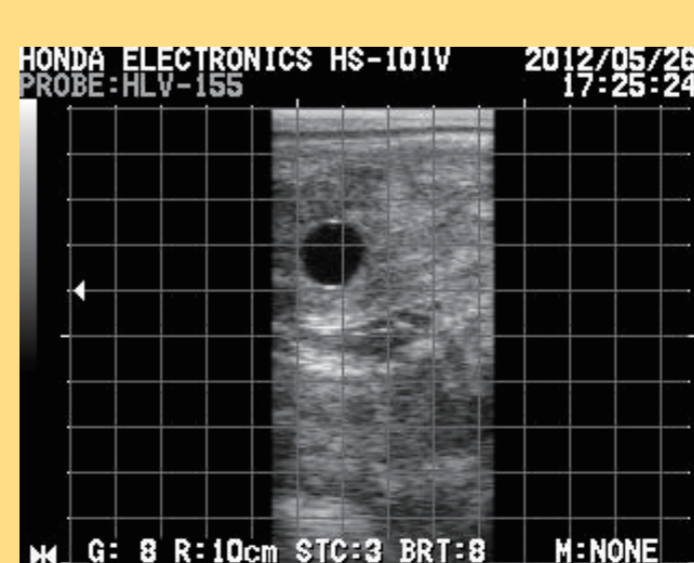
超音波画像診断装置（エコー）



鑑定風景



エコー診断画像



種付15日目



種付30日目